

なんだ・かんだ

◆ 代替エネルギー ◆

アメリカ大統領オバマ氏の経済政策「グリーンニューディール政策」新エネルギー産業の創出。「太陽・風・大地の力を利用して自動車を動かす。」世界同時不況の中太陽光発電や風力発電などの新エネルギー産業はがぜん脚光を浴びています。

数年前、脱中東・脱石油をめざし新エネルギーとしてトウモロコシ等の農作物から作るエタノールの生産が大規模に始められ、アメリカやブラジルなどの農業国の独壇場となっています。しかし、トウモロコシは食糧としても生産されるため穀物価格の上昇というおまけまで付いて来ました。

今注目されているのは、建築廃材や草木そして藻などの非食糧から作るバイオ燃料です。その中で池や湖沼などの生息する「藻類」を使った新エネルギーが日本でも研究され、実用化へあと5～10年とされています。

藻類の優位性はその生産性にあります。1 ha 当たりの生産量は、油糧植物で単位面積当たりの収量が最大の「アブラヤシ」の23倍。そして「トウモロコシ」の700倍の生産効率とされています。加えて、毎年栽培しなければならぬ植物と違い、藻類は生かしたまましばらく何度でも油を採ることができ、栽培の手間は格段に軽くなるという訳です。

藻類から燃料を製造するポイントは第1に藻類の種類によって取れる油の種類や量が大きく異なるため、いかに優れた生産性の高い藻類を見つけることが出来るかが最大のポイントだと言われています。第2に大量培養をする技術の確立。そして第3に効率の良い製造工程を確立し、コストと投入エネルギーをいかに抑えるかがポイントになると言うことです。

現在日本では、筑波大学や慶応大学などで研究が進んでいるようですが、デンソー・竹中工務店・帝人などの企業も進出しています。もちろん海外でも研究が進んでおり、アメリカのベンチャー企業は藻類の大量培養に着手し、既に全米6ヶ所の発電所で藻類を使ったバイオ燃料の生産実験に取り組んでいます。また、石油メジャーの英蘭ロイヤルダッチシェルもハワイに藻類の培養施設を建設することを発表しています。

「トウモロコシ」など農作物を原料とする場合はアメリカなどの農業大国の独壇場でしたが、藻類から燃料を生産するには、日本の得意とする生産管理技術をいかすことができ、我々日本にとっても非常に期待できる代替エネルギーではないかと思えます。

また、これだけ生産効率が高いと日本で今「耕作放棄地」が30万ヘクタール以上あるとされており、それを全て使って藻類を培養すると日本は石油を輸入する必要がなくなるという試算も出されています。あらゆる資源を輸入に頼っている我が国としては、是非外国に頼らないエネルギー資源の製造を確立し、ひいてはエネルギー大国へと飛躍してもらいたいものです。



今年には桜の開花が早く、4月の声を聞く頃には葉桜になってしまっているのではないかと思います。しかしここに来て寒い日が続いたので、桜の見頃は4月の第1週くらいになりそうです。調度入学式に桜吹雪が舞うのではないのでしょうか。そういえば昨年も記録的な桜の早咲きという話で始まって、結局は平年並になったような記憶があります。

早いもので平成20年度もあと数日で終わり、新たな事業年度が始まります。当社では4月1日の午前中に新しい年度の経営方針の発表会を行うのですが、今回は目標数字を作るのに苦労しました。と言つより予測が付かないことだらけで目標を立てるのが非常に難しかった訳です。結局大幅な経費削減を基礎とし必要経費から利益を追った消極的は目標数値になってしまいました。

来期は我慢の年になるのでしょうか。早く暖かくなってほしい。春が来てくれる様に毎日祈っています。

でも、神頼みではダメですかね。やっぱり自分で運はひっぱってこなければ。気合いだー気合いだー気合いだー

代表取締役 服部 徹一郎

さくら咲けー！ 春よ来いー！

当社のお取引会社様

● 株式会社 ネオス ●

今回は、切削剤・洗浄剤を製造している株式会社ネオス様です。
(文:名古屋営業一課 木原正敬様)

弊社は本社を神戸に置く創業59年、社員数約330名の会社です。事業内容の柱は2つあり、1つは私が所属する工業薬品の製造・販売部門、もう一つは洗浄工部門です。工業薬品といってもいろいろとありますが、弊社の主力ラインナップは、水溶性切削油剤、洗浄剤、塗料剥離剤、除錆剤、防錆剤、流出油処理剤、離型剤になります。なかでも水溶性切削油剤は売比3割を超える主力商品です。水溶性切削油剤は、金属を削ったり、研いだりする時に使用する薬品で、御社経由では、工作機械、自動車、金型と幅広い業界に対し販売して頂いております。私が担当させて頂いたこの5年間は、服部社長、営業部の方々の全面的なサポートを受け、非常に充実した期間でした。現在、昨秋からの厳しい市場環境の中でかつてない変革が求められる状況の真っ直中です。しかしながら御社と弊社との関係が揺らぐ事は決してないと確信しています。弊社の事業戦略である環境対応品の開発と提案型営業をもって、御社が発展し続けるために最大限にお役立ちの精神を発揮し、今後ともWIN-WINの関係を構築していきたいと思っております。



■ 新年度 ■

今年久しぶりに新入社員を迎えることが出来ます。次号で改めてご挨拶させて頂きます。また、年度が始まって直ぐに2名が定年を迎えます。建設部マネージャーの中野と山本です。2人とも新卒で入社し40年近く当社に勤め、現在の当社の基礎を築いてくれた人達です。中野はそのまま継続して当社に残りますが、山本はしばらくゆっくりすると言うことで退社することになりました。定年とはいえまだまだ身体的・精神的にも若く、セカンドライフと呼ばれるように長い人生が残っています。健康第一で元気に頑張ってもらいたいものです。

本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方につきましては、その旨ご一報頂きたいと思っております。次回からの発送を中止させて頂きます。

株式会社 チキリ
静岡県駿東郡清水町卸団地 73
Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534
E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/